

Interview

インタビュー



都会から小林へ移住してきた人は、小林の水道水に驚く。
都会と全然違う。

北九州市から移り住んだ
もがみ あつみ
毛上 淳美さん

13年前に小林市にきました。

北九州の水道水は、浄水器を蛇口に取り付けることで何とか飲める程度。小林市の水は本当に美味しいです。向こうから家族が遊びに来たときは、水のおいしさに驚いているようでした。麦茶を作る時も、ティーパックを水に直接入れています。



▲水道水を供給するポンプ施設
(写真は観音ポンプ場)。

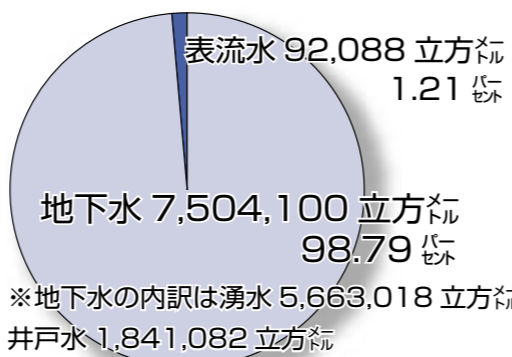
kind

水の硬度

硬度とは、ミネラル分を構成するカルシウムやマグネシウムの量を炭酸カルシウムに換算して表したものです。(※硬度の基準はいくつかあります。) 小林市の水道水は、本文で示したとおり86ですから、軟水に分類されます。

区分	基準
軟水	0～100mg/l
中程度の軟水 (中硬水とも言う)	100～300mg/l
硬水	300mg/l～
非常な硬水	

Comparatively 水道に占める地下水



Quantity 市民1人が1日で使う量



市民1人が、1日に使う水の量は、平均で約200ℓ。(水道課調べ)
1ℓペットボトルに換算すると、1人でなんと1日200本。500ミリだと…

× 400本

水道を知る

おいしい水道には地下水が使われていた

私たちの生活に必要不可欠な水。そして、安全・安心な水を安定して届けてくれるのが水道です。小林市の水道のほとんどが地下水であることをご存知でしょうか。ここでは、小林市の水道がおいしい水を供給していることを紹介します。

水道の歴史

水道がない時代、生活に必要な水は井戸や湧水、川の水に依存していました。しかし、人口の増大や生活の変化に伴い、生活排水や農薬などによる水環境の汚染が懸念されるようになりました。

そこで水道が必要とされるようになりまし。水道の目的は、清浄で豊富な水を安定して住民に供給すること。それによって公衆衛生の向上と生活環境の改善を図ることにあります。

市では、昭和37年に市街地を対象とした水道が完成。その後、水源を確保しながら拡張を重ねてきました。

小林市のおいしい水道水

小林市の水道水はおいしいと市外の方から聞いたことはありませんか。都市部では、河川から取水した水に薬品を大量に投入し、幾重にも処理を重ねて飲み水を作っているところが多くあります。これに対して、小林市は霧島山系の北部から湧き出るきれいで豊富な湧水に恵

まれた地域であり、少ない塩素で消毒(※)するだけで、安全で安心して飲める水の供給ができています。

なお、小林市の水道水は硬度が86(※表参照)で軟水に分類され、炊飯、料理全般そして緑茶やコーヒーを入れるのに適していると考えられます。

このように、私たちの生活に必要な不可欠な小林市の水道は、霧島を始めとする豊かな自然の恵みによって、おいしい水を供給しているのです。

※…水道法の規定により蛇口から出る水道水の塩素の残留濃度が1ℓあたり1ミリグラム以上と規定されているため少量の塩素を注入しています。

水道水も貴重な資源

水道水は豊富な地下水に支えられてはいますが、限りある貴重な資源です。いつまでも安心して水が使えるように、普段から無駄のない使い方を心がけるようお願いいたします。

● 問

水道課

TEL 23・0321